

令和 7 年度厚生労働行政推進調査事業費（長寿科学政策研究）

（総括・分担）研究報告書

生活期リハビリテーションにおける介入手法の標準コードの開発研究

研究代表者：三上 幸夫（広島大学病院・リハビリテーション科・教授）

研究要旨：令和 7 年度では、1）生活期リハビリテーション手法の標準コードを用いて、急性期、回復期、生活期の介護老人保健施設、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを対象とした多施設コホート研究、2）令和 6 年度に作成した、「標準コードを用いた評価・介入手法の手引き書」の改訂、3）令和 5-6 年度の成果発表を行った。1）本研究では、生活期リハビリテーション手法の標準コードを用い、全国 39 施設・1174 例を対象とした多施設共同コホート研究を実施し、リハビリテーション内容、実施時間、ADL 変化を 2 時点で定量的に可視化した。介護保険のリハビリテーションでは IADL 訓練や環境調整・支援の実施が多く、施設区分ごとの目的や対象者像の違いが示され、標準コードは実態把握およびデータ基盤構築に有用であると示唆された。2）「標準コードを用いた評価・介入手法の手引き書」の改訂では、多職種で構成されるワーキンググループで令和 6 年度に作成した手引き書の原案を編集し、各コードの定義、適用範囲、具体的な評価・介入方法を再整理して、手引き書を更に実践的かつ汎用性の高いものにした。3）令和 5-6 年度の成果を国内外に発表した。

研究分担者：氏名・所属研究機関・役職

- ・ 安保雅博・東京慈恵医科大学医学部・教授
- ・ 久保俊一・京都府立医科大学リハビリテーション医学教室・特任教授
- ・ 三上靖夫・京都府立医科大学リハビリテーション医学教室・教授
- ・ 西村行秀・岩手医科大学医学部・教授
- ・ 大高洋平・藤田医科大学医学部・教授
- ・ 佐々木信幸・聖マリアンナ医科大学医学部・主任教授
- ・ 百崎良・三重大学医学部附属病院・教授
- ・ 新見昌央・日本大学医学部・教授
- ・ 沢田光思郎・京都府立医科大学リハビリテーション医学教室・准教授
- ・ 木下翔司・東京慈恵医科大学医学部・准教授
- ・ 吉田健太郎・東京慈恵医科大学医学部・助教
- ・ 西山一成・岩手医科大学医学部・講師
- ・ 中山恭秀・東京慈恵医科大学医学部・准教授（理学療法士）
- ・ 北村新・藤田医科大学保健衛生学部・助教（作業療法士）
- ・ 清水美帆・三重大学医学部附属病院リハビリテーション部・技師長（理学療法士）
- ・ 塩田繁人・広島大学病院・診療支援部リハビリテーション部門・副部門長（作業療法士）
- ・ 吉川浩平・広島大学病院・診療支援部リハビリテーション部門・主任言語聴覚士
- ・ 浅枝諒・広島大学病院・診療支援部リハビリテーション部門・理学療法士
- ・ 秋田智之・広島大学大学院医学系研究科・講師

A. 研究目的

1) 急性期～生活期の介護老人保健施設、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを対象とした多施設コホート研究を実施し、2時点評価におけるリハビリテーション手法の実施内容、実施時間およびADL変化の実態を明らかにすることを目的とした。2) 令和6年度に作成した「標準コードを用いた評価・介入手法の手引き書」を多職種で構成されるワーキンググループで編集することを目的とした。3) 令和5・6年度の成果を国内外の学会および論文に発表することを目的とした。

B. 研究方法

1) 本研究は、多施設共同コホート研究として、全国39施設の医療機関および介護事業所を対象に実施する。調査期間は2025年9月～2026年2月で、事前に標準コードの説明会を行った。患者登録およびベースライン評価を実施し、3か月後にフォローアップ評価を行う（急性期・地域包括ケア病棟は開始時と退院時の2時点評価）。データはGoogle Formsで収集し、ベースラインでは基本属性や疾患情報、2時点評価ではBI/FIM、実施した標準コード内容と時間等を把握する。収集データはExcelで施設区分ごとに単純集計する。2) 多職種で構成されるワーキンググループで、令和6年度に作成した手引き書の原案を編集する。3) 令和5・6年度の成果を国際誌に投稿し、国内の学会で発表する。

（倫理面への配慮）

本研究は広島大学病院疫学倫理審査委員会の一括審査で承認を受けた後、各研究協力施設において倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：E2024-0137）

C. 研究結果

1) 対象は1174例で、主に高齢女性が多く、脳血管疾患や骨関節疾患が中心であった。急性期・回復期・地域包括ケア病棟ではBIの改善が認められたが、在宅系サービスではベースラインから高値で

あった。介入内容は運動療法、基本動作訓練、歩行訓練が中心で、急性期・回復期で実施率・時間ともに高かった。一方、IADL訓練や環境調整支援は回復期および在宅で多く、回復期では退院支援関連介入が多かった。経過に伴い応用歩行訓練やIADL訓練が増加し、標準コードにより介入内容と時間の違いが可視化された。2) 「標準コードを用いた評価・介入手法の手引き書」を編集し、各コードの定義、適用範囲、具体的な評価・介入方法を再整理して、手引き書原案を更に実践的かつ汎用性の高いものにした。3) 令和5・6年度の成果を1論文が国際誌に投稿して受諾され、3本が査読中である。また、国内の学会で3回発表した。

D. 考察

1) 本研究は標準コードを用いた多施設コホート調査により、急性期から在宅までのリハビリテーション実践を定量的に可視化し、2時点評価と実施時間の収集が実施可能で有用であることを示した。急性期・回復期では機能改善を目的とした介入、在宅系では生活維持や社会参加支援を重視した介入が中心であり、段階に応じた役割の違いが明らかとなった。また、経過に伴い活動・参加レベルへの介入へ移行する傾向が示された。一方で観察研究である点や介入の質を評価できない点などの限界があり、今後は詳細な解析とデータ基盤の発展が求められる。2) 令和6年度に作成した「標準コードを用いた評価・介入手法の手引き書」は内容の一貫性に課題があった。そこで、令和7年度では原案を編集し、各コードの定義、適用範囲、具体的な評価・介入方法を再整理して、手引き書を更に実践的かつ汎用性の高いものに出来た。3) 令和5・6年度の成果を国内外に周知する必要性があった。

E. 結論

標準コードを用いた多施設共同調査により、急性期から在宅までのリハビリテーション内容と実施時間の違いを可視化でき、施設区分ごとの特徴が明らかとなった。また、「標準コードを用いた評

価・介入手法の手引き書」を改訂し、手引き書を更に実践的かつ汎用性の高いものにした。3) 令和 5-6 年度の成果を国内外に発表した。
本コードは実態把握とデータ基盤構築に有用である可能性が示された。

文献

- 1) 三上幸夫, 塩田繁人, 浅枝諒: 医療保険と介護保険のリハビリテーション連携の現状と課題. 臨床リハ 33 (9): 873-880, 2024.
- 2) Shiota S, Mikami Y, et al: Establishing Standard Categories of Rehabilitation Approaches in Long-Term Care: A Delphi Consensus Study. Prog Rehabil Med10: 20250016, 2025
- 3) 三上幸夫 編著. 介護領域のリハビリテーション手法手引き書. 一般社団法人 日本リハビリテーション医学教育推進機構, 2023.5

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

(論文発表)

1. Shiota S, Mikami Y, et al: Establishing Standard Categories of Rehabilitation Approaches in Long-Term Care: A Delphi Consensus Study. Prog Rehabil Med10: 20250016, 2025
2. Shiota S, Mikami Y, et al: Differences in rehabilitation content between hospitals and long-term care facilities using standardized categories for older adults: a multicenter cross-sectional study. (In Review)
3. Kinoshita S, Mikami Y, et al: Known-Groups Validity of Standardized Rehabilitation Intervention Categories Across Disease and Functional Status in Inpatient Care. (In

Review)

4. Asaeda M, Mikami Y, et al: Allocation of Rehabilitation Time and Early Walking Independence in Patients After Total Joint Arthroplasty: A Retrospective Cohort Study. (In Review)

(学会発表)

1. 品末 典也, 塩田 繁人, 三上 幸夫. 広島県内の医療介護施設における標準コードを用いた実態調査. . 第 62 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2025 年 6 月 12 日
2. 松本 彰紘, 三上 幸夫. リハビリテーションの訓練項目と訓練時間が患者 ADL に与える影響の調査: 3.5 ヶ月 1229 人の統計分析. 第 53 回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会, 2025 年 7 月 13 日, 第 53 回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会, 2025 年 7 月 13 日
3. 塚原 樹佳, 三上 幸夫. 生活期リハビリテーション手法の標準コードの Feasibility 調査. 第 53 回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会, 2025 年 7 月 13 日

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし